



北海道医歌人会詠草

慕情

何時迄も心の奥に生きませよ実子先生今旅立ちぬ
贈られし校旗に喪章をしつらえて祭壇の横につきそう如し
言葉なく生き行く指標を示されてやさしく何時もいたわり給う
ふりむけば得難き人に出会えたりその傍せで今がある吾
アララギの歌会に同席させて頂きて小国先生の名も知りたりき

旭川 稲積 文子

雪

天からの手紙とたとえる巧みさの中谷博士の雪今日も降る
数センチたったこれだけ積もったと交通麻痺の東京哀れ
猛烈な吹雪を背にして子を一夜守り続けて息絶えた父よ
音もなく雪降り積もる朝まだきほのかな光に人影もなく
雪降りに静と動あり北国の神と悪魔の競う勝ち負け

江別 三宅 浩次

箱根駅伝

発走の二時間前より太鼓打つきみ耳栓をしかと詰むるや
ひたすらに太鼓打つきみ応援の騒音性難聴は補償あらざる
撮影のポイント求め移動する沿道数キロ人垣の列
選手らは一團となり駆け抜けぬシャッターチャンス再びは来ず
某大学某県支部の幟立つ津々浦々に支持母体あり

札幌 古屋 統

ここのとり

「ここのとり」ドッキング成る日本の科学技術が今日も輝く
油井さん百八十二日の滞在を果たして我は神に感謝す
ISSは平和の象徴愛し行かむ人と地球とそして機械も
日本生まれの宇宙人はや十六人子供等の明日へ夢を手渡す
憧れの火星に発てる探査機よ三年間は待ち遠し過ぎる

美唄 吉村 誠治

ヤブカンゾウ

メラメラと炎の色に燃えて咲くヤブカンゾウに夏日は終はる
「盛岡はおソバを食べたところね」と旅の思ひ出ひもとく妻は
俳句かと問ふ人もあり歌詠みの文化遺産を守り継ぐべし
心不全父の治療が始まりし齡に我も同じ症状
朝の空淡く浮く雲斑月エゾヤマハギが僅かに揺らぐ

札幌 浜島 泉

死期と悟る

心臓の電池が切れて今夜にも死にそうだよと老爺の訴え
ペースメーカー定期点検異常なしされど老爺の不安は消えず
「近々に死ぬことはもう分かっている。くすりも食事も要らぬ」と老爺
老妻を病床に呼び手をとりて永の別れと老爺派す
「死ぬ、死ぬ」とひと月余りも言い続け老爺は卒然帰らぬ人に

釧路 兎玉 昌彦